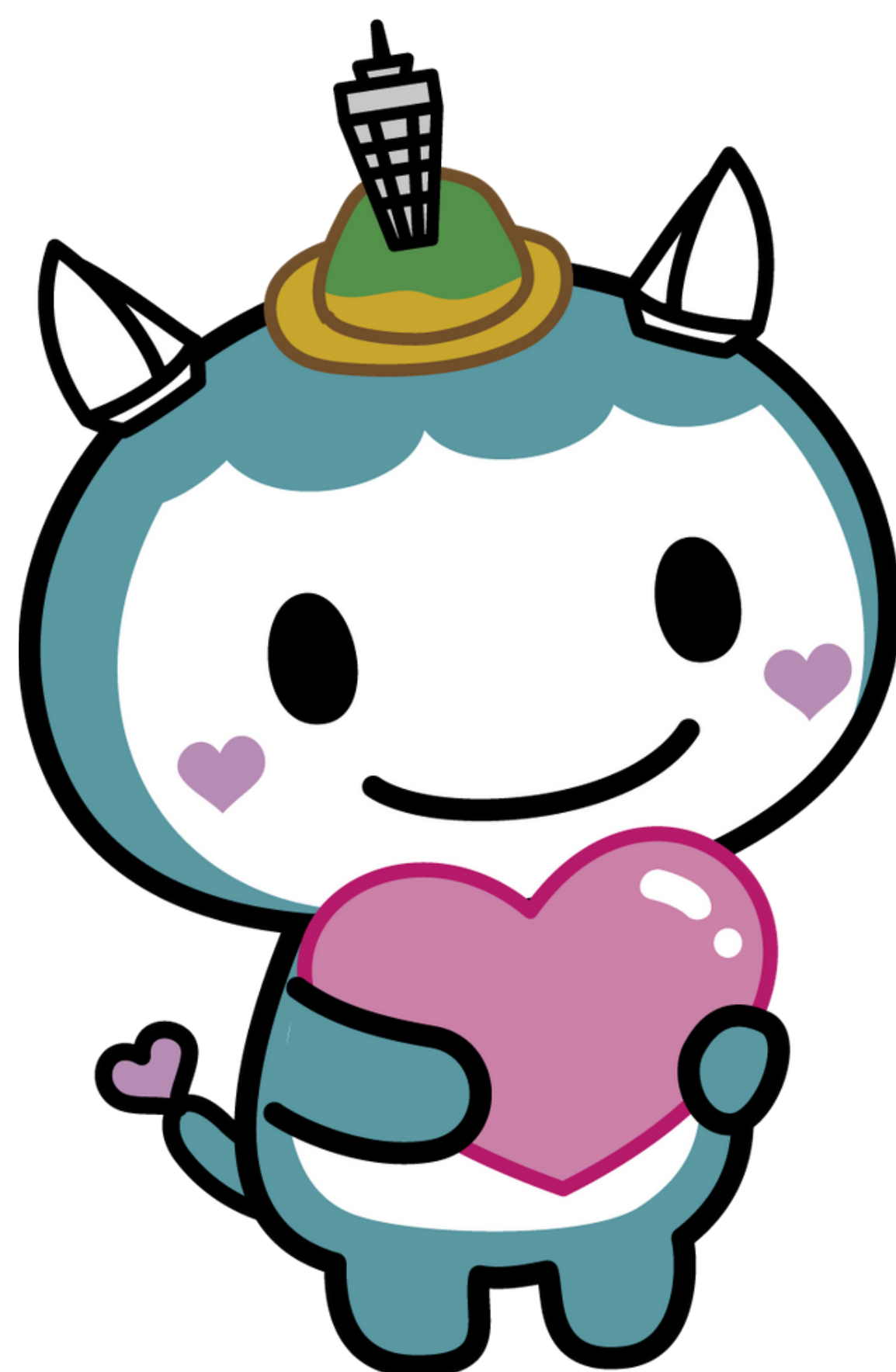


ケアプランデータ 連携による ポイント・事例集



藤沢市
Fujisawa City

1	はじめに	P3
2	主な効果と活用のポイント	P4
3	好事例集	P7
	株式会社OHANAケア ALOHA工房 様	P8
	村岡ケアステーション 居宅介護支援事業所 様	P10
	村岡ケアステーション デイサービス 様	P12
	藤沢市片瀬地域包括支援センター 様	P14
	株式会社ニッショウ 様	P16
4	編集後記	P18

はじめに

はじめに

高齢化の波が押し寄せる中、介護現場では、業務の効率化と質の向上という二つの重要な課題に日々直面されています。藤沢市では、ケアプランデータ連携システムという新たなツールを活用し、煩雑な事務作業から解放され、利用者の方々と向き合う時間を増やす試みが始まっています。この好事例集は、その解決に向け、ケアプランデータ連携システムを導入した藤沢市内の介護事業所の皆様の生の声をまとめたものです。

ここでは、居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、地域包括支援センターの各現場で、システムがどのように活用され、具体的な効果を生み出しているのかを、事例を通して分かりやすくご紹介します。「紙の書類の山からの解放」、「デジタル連携によるスムーズな情報共有」など、現場の皆様の創意工夫が詰まった事例は、きっと皆様の業務改善のヒントとなるはずです。

藤沢市内においても、システム導入当初は様々な課題や不安の声がありました。しかし、丁寧な説明会の実施、個別訪問による働きかけ、そしてICTに不慣れな事業者への手厚いサポートを通じて、着実に導入が進んでいます。この事例集には、その過程で得られた具体的なノウハウや成功の秘訣が凝縮されています。

未来の介護を、より効率的で、温かく、質の高いものへ。この事例集が、その第一歩を踏み出すための一助となれば幸いです。ぜひ、各事例から新たな発見を見つけていただき、それぞれの地域に合った形で、デジタル化への勇気ある一歩を踏み出してください。介護現場の皆様にとって、力強い羅針盤となることを願っています。

ポータルサイトで情報を発信



<https://sites.google.com/tadakayo.jp/miyazaki/top>

ケアプランデータ連携システムとは？

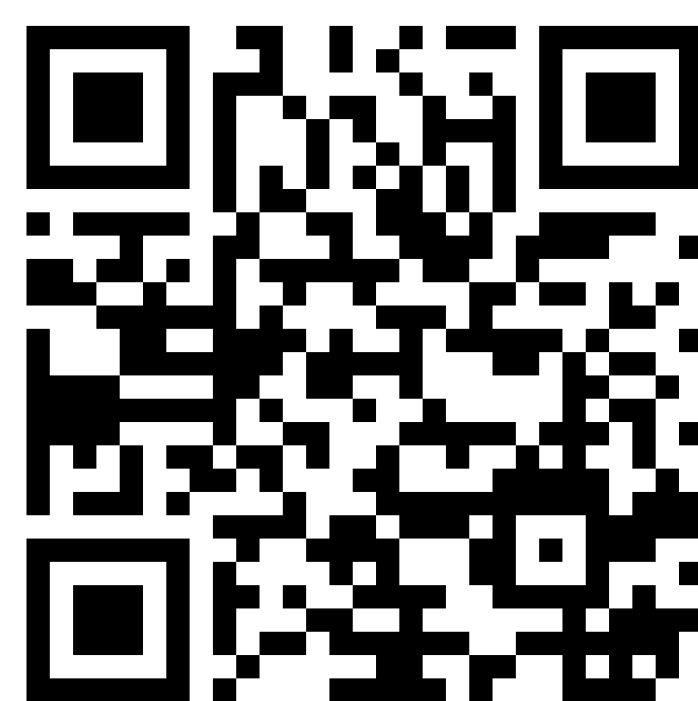
ケアプランデータ連携システムは、居宅介護支援事業所と居宅サービス事業所間のケアプランに関する情報連携を、オンラインで効率的に行うための仕組みです。これまで紙ベースで行われていた煩雑なやり取りをデジタル化することで、業務効率化と生産性向上に貢献します。

主な特徴として、計画書や提供票などのデータをドラッグ＆ドロップで容易に準備できる「かんたん」さ、記載ミスや書類不備を減らし、介護報酬請求で使用されるセキュリティ方式を採用した「あんしん」さ、そして業務時間を大幅に削減し、費用面でも効果が期待できる「さくげん」効果が挙げられます。

このシステムは、介護現場のDXを推進し、質の高いケアの提供を支援するための重要なツールと言えるでしょう。

ケアプランデータ連携システムヘルプデスクサポートサイト

ケアプランのやり取りを、紙からデジタルへ。



<https://www.careplan-renkei-support.jp/>

主な効果と 活用のポイント

主な効果と活用のポイント



本事業を通じてケアプランデータ連携システムを導入した事業所は、提供表や提供実績の受け渡しに要する業務時間が、平均で**22%削減**する事ができました。

特に大きな効果が出た事業所では、**7割以上**の削減効果を確認することが出来ました。

提供表と提供実績の受け渡しに要する業務時間の変化（単位：分）

サービス種別	調査 件数	月間業務時間（単位：分）		
		導入前	導入後	変化
合計	42	40,874	32,056	-22%
居宅介護支援・地域包括支援センター	17	24,409	18,396	-25%
サービス提供事業所	25	16,465	13,660	-17%

特に大きな業務時間の削減に成功した事業所

事業所（サービス種別）	月間業務時間（単位：分）		
	導入前	導入後	変化
A事業所（地域密着型通所介護）	2,700	600	-78%
B事業所（居宅介護支援）	880	210	-76%
C事業所（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）	595	155	-74%
D事業所（居宅介護支援）	1,295	343	-74%
E事業所（地域密着型通所介護）	1,710	465	-73%



主な効果と活用のポイント



居宅介護支援事業所の場合

事務作業の効率化と負担軽減

ケアプランやサービス提供票などの情報を電子的に共有することで、印刷、FAX、手渡しといった手間が大幅に削減され、事務作業の効率化と負担軽減に繋がります。これにより、ケアマネジャーは本来のケアマネジメント業務に集中できる時間が増えます。例えば、手作業での書類作成や配布にかかっていた時間が大幅に削減された事例が報告されています。

迅速な情報連携と支援の質の向上

システム導入により、関係機関とのタイムリーな情報共有が可能となり、連携ミスや情報伝達の遅延を防ぎ、より質の高いケアプラン作成とサービス提供に繋がります。医療機関との連携が円滑になることへの期待も述べられています。また、最新の情報に基づいた適切な支援が提供できるようになります。

働き方の柔軟性と地域への貢献

事務作業の効率化は、ケアマネジャーの残業時間削減や、より柔軟な働き方を可能にする可能性があります。また、一人当たりの担当件数を増やすことが可能になる場合もあり、地域全体としてのケアマネジメントサービスの提供能力向上に繋がります。ICT活用や事務職員の配置と組み合わせることで、生産性向上と業務効率化が期待できます。

サービス事業所の場合

書類管理の効率化とコスト削減

ケアプランやサービス提供票の電子データでの受け渡しにより、印刷、郵送、FAXなどの手間やコストが削減されます。紙媒体の管理スペースも不要になるため、事業所の運営効率化に貢献します。特に書類の量が多い事業所ほど、効果を実感しやすいとされています。

迅速な情報共有と円滑なサービス提供

最新のケアプランや指示書が迅速にデータで共有されるため、サービス提供者はスムーズに業務を開始でき、利用者への適切な支援に繋がります。情報の確認漏れや伝達ミスも防ぎ、より安全で質の高いサービス提供が可能になります。

多職種連携の促進と質の高いケア

システムを通じて、ケアマネジャーや他のサービス事業者との情報共有が容易になり、連携がスムーズに進みます。会議資料や報告書などもデータで共有できるため、多職種連携による包括的な支援体制の構築に役立ちます。

地域包括支援センターの場合

地域連携の強化と情報共有の促進

ケアプランデータ連携システムは、地域内の居宅介護支援事業所や介護サービス事業所との情報共有を促進し、地域全体の連携を強化する基盤となります。地域内の情報が共有されることで、より包括的で質の高い支援体制の構築に貢献します。

業務効率化による相談支援体制の強化

紙ベースでの情報管理や連携業務から解放されることで、地域包括支援センターの職員は、相談支援、介護予防、地域ケア会議といった本来の業務に注力できるようになります。事務作業時間の削減により、地域住民への支援活動をより充実させることが可能になります。

地域包括ケアシステムの推進と質の向上

地域内の様々な事業所との連携が強化されることで、地域包括ケアシステムの構築と推進に貢献します。地域のニーズに合わせた効果的な支援体制を構築し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように支援することができます。

好事例集



事業所概要

- サービス種別：地域密着型通所介護
- 所在地：藤沢市川名
- 従業員：5名
- 利用定員：20名
- 取材協力者：小嶋佳世様（生活相談員）

インタビュー

本日は、ケアプランデータ連携システムを導入されているALOHA工房の小嶋様にお話を伺います。

まず、**貴事業所の概要**について簡単にご説明いただけますでしょうか？



取材担当 蜂谷
(ケアマネ)



小嶋様

はい。株式会社OHANA（オハナ）ケアという会社で、事業所名としてはALOHA工房という半日型のリハビリデイサービスを行っております。スタッフは介護士を中心に5名ほど在籍しております。

今回、藤沢市のケアプランデータ連携による活用促進モデル地域づくり事業に参加された**きっかけ**を教えてくださいませんか？



蜂谷



小嶋様

元々、介護ソフトを選ぶ際に、連携システムが利用できるかケアマネージャーの方に尋ねられたことがきっかけで関心を持ちました。
その後、別のソフトを導入しましたが、いずれは連携システムを活用したいと考えておりました。そんな折、藤沢市さんからお声がけいただき、良いタイミングだと感じてすぐに参加を決めました。

ケアプランデータ連携システムを導入する際に**課題**となった点はございましたか？



蜂谷



小嶋様

申し込みはしたものの、内容を十分に把握できていない状況で、特に**国保連合会のIDのような番号**が分からず苦労しました。
社内で管理している情報を私が代わりに調べたり、タダカヨさんにお手伝いいただいたりして、ようやく導入できたという状況でした。普段使わないIDだったため、知らなかったです。



国保連合会の電子請求書IDとパスワードは、使う機会が無いので、分かりませんよね、、、。連携システムの導入によって、**具体的な成果**はありましたか？



蜂谷



小嶋様

約60名のご利用者情報が新たにデータ連携できるようになり、**ご利用者全体の半数以上、6割弱が連携**できるようになりました。多くの人数と連携できるようになったことが成果としては大きいです。

6割もデータ連携できるようになったのは大きいですね！！



蜂谷



小嶋様

はい。導入前は、居宅や包括から提供表をFAXや郵便で受け取り、システムへの入力、内容確認を行っていました。しかし、導入後は、CSVデータで提供表を受け取れるようになったため、**入力間違いの確認作業**が基本的に**不要**になりました。



小嶋様

また、データ連携できる割合が増えたことで、以前はばらばらに届いていた**提供表**が、比較的**まとまった時期にデータで入ってくる**ようになったため、取り込み作業の時間を確保しやすくなったというメリットも感じています。**見えない業務効率化**だと思います。

様々な導入効果が生まれてますね！
最後に、今後の連携システムに対する**展望**や**期待すること**はありますか？



蜂谷



小嶋様

現状は未だFAXや郵便でのやり取りも残っており、二重で対応している状況です。システムを活用されていない事業所が周囲に3分の1ぐらいはあるので、そちらとのデータ連携が実現すれば、業務効率が大幅に向上し、時間短縮につながると思います。
今後は、紙媒体でのやり取りが減り、**連携システムがさらに普及**していくことを期待しています。

地域でデータ連携システムがさらに広まるといいですね！
本日は貴重なお話ありがとうございました。



蜂谷



事業所概要

- サービス種別：居宅介護支援
- 所在地：藤沢市渡内
- 従業員：4名（ケアマネジャー）
- 利用者数：160名
- 取材協力者：板垣 直人 様（管理者）

インタビュー

本日は、ケアプランデータ連携システムを導入されている村岡ケアステーション居宅介護支援事業所の板垣様にお話を伺います。

まず、**貴事業所の概要**について簡単にご説明いただけますでしょうか？

取材担当 蜂谷
(ケアマネ)

板垣様

村岡ケアステーション居宅介護支援事業所では、ケアマネジャーが4名在籍しており、男性3名、女性1名と男性が多いのが特徴です。利用者様の担当人数は、ケアマネジャー1人あたり大体40名前後で、4名で約160名のご利用者様を支援させていただいております。

今回、藤沢市のケアプランデータ連携による活用促進モデル地域づくり事業に参加された**きっかけ**を教えてくださいませんか？



蜂谷



板垣様

藤沢市の方からお話をいただき、参加を検討いたしました。正直なところ、導入すべきかどうか迷いもありました。現状でも業務は回っており、すぐに効果が出るとは思えませんでした。事業所の管理者として、このままで良いのかという危機感がありました。従業員自身も成長していく必要がありますし、時代の流れに取り残されてしまうのではないかとこの思いもあり、**思い切ってまずはやってみよう**と決意いたしました。

素晴らしい決断ですね！！参加に迷われている事業者もある中で、将来を見据えて一歩踏み出されたのですね！

実際にケアプランデータ連携システムを導入する際に**課題**となった点はございましたか？



蜂谷



板垣様

データ連携を始めるまでの準備段階で、意外と手間がかかるものだと感じました。導入の手順書を見ながら進めたのですが、ダウンロードやインストール、証明書の発行といった作業で迷う部分もありました。ただ、手順書を丁寧に確認することで、なんとか解決することができました。

また、**IDやパスワードの設定**に関しても、どうしても**戸惑う職員**がおりました。



導入の初期段階では、そうした設定周りで苦労されるケースは少なくないようですね、、、。どのようにしてその課題を**解決**されましたか？



蜂谷



板垣様

手順書を再度丁寧に説明したり、実際に操作を見せたりしながら、一つ一つクリアしていきました。フローチャートに沿って進めることで、最終的には全員が導入を完了することができました。

丁寧にサポートされたのですね。導入後、約2ヶ月が経過したとのことですが、具体的な**成果**はいかがでしょうか？



蜂谷



板垣様

提供票の発送業務において、明確な変化がありました。以前は、毎月100件近くの提供票を郵便で発送しておりましたが、現在では郵便での発送が**85%程度にまで減少**しました。約15%のご利用者様の提供票が、連携システムを通じて事業所へ送付できている状況です。

今後ますます連携システムへ移行が進めば、郵便代の大幅なコスト削減に繋がりそうですね。
今後の連携システムに対する**展望や期待**することはございますか？



蜂谷



板垣様

今回のデータ連携システムの導入は、当事業所にとって良いきっかけになったと感じています。当事業所のケアマネージャーも年齢層が上がってきており、新しいことに抵抗を感じる者もいましたが、実際にやってみると**意外とスムーズ**に進められています。



板垣様

今後の展望としては、職員の**意識改革**に繋がればと考えています。新しい仕事のやり方を覚えることで、意識が変わり、将来的には人間としての成長にも繋がるのではないかと期待しています。また、ICT化や生産性向上という面でも、今回の経験を活かして様々なことに取り組んでいきたいと考えております。連携システム自体も、操作が複雑ではないため、**ICTに苦手意識のある職員にとっても良い入り口**になるのではないかと感じています。

村岡ケアステーション様が積極的に新しいシステムを取り入れ、業務改善と職員の成長に繋げようとされている姿勢が大変印象的でした。本日はありがとうございました。



蜂谷